

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【家庭／家庭基礎】

1 対象 1年生

授業では日頃から意見交換をする場を多く設けており、自己の意見を持ち、発言できる生徒が多い。ジェンダーについては、「家族」分野で少し触れた程度であったが、単元の発展課題として取り組んだ調べ学習で、ジェンダーに関することを取り上げた生徒がクラスの半数おり、生徒から更なる疑問点なども上がってきたため、今一度ジェンダーについて学び合う機会を設けることとした。

2 単元名「 人生をつくる 」(全8時間)

3 単元で育成を目指す資質・能力

| | |
|------------------------------|--|
| <p>知識及び技能</p> | <p>人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。</p> |
| <p>思考力, 判断力, 表現力等</p> | <p>生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び、職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。</p> |
| <p>学びに向かう力, 人間性等</p> | <p>様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分の目指す生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> |

4 本時の目標

自分たちの中にも、ジェンダーによる固定観念があることに気づき、改めて課題意識を持って生活を見直すことにより、ジェンダー平等を実現するために、今自分たちができることを考え表現することができる。

5 授業展開【(本時)・単元】

| |
|---|
| <p>解決したい課題や問い</p> |
| <p>ジェンダー平等を実現するために、今、自分たちができることを考えよう。</p> |

| 考えるための材料A | 考えるための材料B |
|---|---|
| <p>「新聞記事」</p> <p>本校生徒による投稿記事。 男子バスケットボール部のマネージャーは女子なのに、なぜ女子バスケットボール部のマネージャーは男子ではいけないのか、素朴な疑問を投稿した記事。</p> <p>・新聞記事を読み自分たちの身近にもジェンダーによる差別はないか考える。</p> | <p>「関連データの提示」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ指数 ・共働き世帯数の推移 ・家事労働時間の年齢別男女差 ・日本女性の労働力率の推移(M字型曲線)、男性との比較 <p>(以下 既習資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別役割分業意識 ・育児休業取得率の男女比 ・男女の賃金格差 ・未婚率の上昇 ・少子高齢化と労働人口減少の変化予測 |

| 想定される活動 | 想定される活動 |
|--------------------------------|--|
| 自分たちの身近にもジェンダーによる差別があることを理解する。 | ジェンダー平等の実現は、単に男女間の不平等を無くす、というだけではなく、様々な社会問題と関係していることを知り、ジェンダー平等に向けて、今、自分たちができることを考えることの重要性を認識する。 |

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- 1 本時のテーマを確認する。
- 2 「新聞記事」（材料A）を読んだ後、個人でジェンダーによる差別の身近な例を考える。
- 3 グループで共有した後、クラスで共有する。（12分）

・男は青, 女は赤(ピンク) ・体育館のイス並べに男子だけが呼ばれる。 ・女子は入れない部活がある。(野球部, サッカー部) ・制服(女子は寒くてもスカート) ・髪型 ・女子は料理ができる。 ・女子力という言葉がある。 ・理系科目は男子が得意。 文系科目は女子が得意。 ・男性イメージの職業, 女性イメージの職業がある など

- 4 「関連データの提示」（材料B） （8分）
- 5 材料A・Bから「ジェンダー平等を実現するために、今、自分たちができること」を個人で考えた後、グループで協議しながら探っていく。（13分）
- 6 グループで、大切なことを3つ選び、発表する。（15分）

- ・ジェンダーにとらわれず、平等に接する。
- ・ジェンダーバイアスによる差別的な発言や行動をしない。
- ・固定観念にとらわれず、周りの人の意見や個性を尊重する。
- ・相手に「男らしさ」「女らしさ」を押し付けない。
- ・自分らしさを大切にす。 ・その人らしくいることを受け入れる環境作りをする。
- ・ジェンダー平等についての正しい知識を持ち、その考えを身近なところから広めていく。

- 7 まとめ （2分）

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

自分たちが意識を変えるだけでも、ジェンダー平等を実現する一歩になる。ジェンダー平等の実現は将来の選択肢を広げ、性別に関わらず、誰もが自分らしく活躍できる社会の実現につながるとともに、政治や経済、少子化など社会全体に関わる課題の解決にもつながることを認識する。